

中日本自動車短期大学 自己点検・評価報告書

平成25(2013)年 11月

1. 自己点検・評価の基礎資料

(1) 学校法人及び短期大学の沿革

1960年代中頃の自動車産業界は、自動車の急速な普及によって車輛の整備技術をマスターした人材の不足が深刻化し、自動車販売会社でもメカニクの確保に躍りになっている時代であった。愛知県津島市と江南市において自動車教習所を運営していた創設者の神野浅義は、まさに我が国がモータリゼーションの入り口に立ったこの時代：1967(昭和42)年に自動車整備技術者養成を目的とし、岐阜県加茂郡坂祝村に学校法人神野学園 中日本自動車短期大学を創立した。当初は、自動車工業科(2年課程、入学定員150名)であったが、自動車産業界の要請に応え、翌年には入学定員400名と増員、また、1971(昭和46)年には入学定員600名へと増員された。

1970年代に入ると我が国の航空業界は、旅客、貨物ともに空路の利用が高まり活況を呈してきた。それと共に、航空各社や航空機メーカーは航空従事者の人材不足に危機感を抱いていた。そのような状況の中、1971(昭和46)年に航空整備士養成を目的として 中日本航空専門技術学校(後に中日本航空専門学校へ校名変更)、航空整備科(2年課程、入学定員100名)が設立された。

また、医療分野においては高度な医療の提供は 医師と医療技術者が一体となつてこそ提供されるものであるが、当時は医療技術者が不足していた。そこで、1973(昭和48)年に臨床検査技師の養成を目的として国際医学総合技術学院、衛生技術学科(3年課程、入学定員120名)が設立された。続く翌年には、診療放射線技師養成を目的に診療放射線技術学科(3年課程、入学定員40名)が増設された。さらに、1983(昭和58)年にはより高度な医療技術者の養成を目指し 岐阜医療技術短期大学、衛生技術学科(3年課程、入学定員80名)、診療放射線技術学科(3年課程、入学定員80名)が設立され、国際医学総合技術学院は1985(昭和60)年に廃止された。また、1991(平成3)年には看護学科(3年課程、入学定員60名)が増設され 3学科体制となった。その後、2005(平成17)年には念願であった4年制大学の設置申請を行い、保健科学部、衛生技術学科(入学定員80名)、放射線技術学科(同80名)、看護学科(同80名)の一学部、3学科の岐阜医療科学大学の認可を得た。岐阜医療技術短期大学は2008(平成20)年に廃止となった。

1987(昭和62)年には法人本部は名古屋市の中心地へ移り、18歳人口の急増期を前に専門学校の新設を計画した。そして、ハワイパシフィック大学と単位互換、編入学協定を結んだ 国際情報パシフィック専門学校、国際マネジメント科(2年課程、入学定員120名)、情報マネジメント科(2年課程、入学定員120名)が設立された。その後、改組転換し1999(平成11)年に介護福祉学科(2年課程、入学定員80名)を、2004(平成16)年には総合福祉学科(2年課程、入学定員40名)を設置し東海福祉総合専門学校へと校名を変更した。しかし、2009(平成21)年には他法人へ移管し 設置者変更を行った。

さて、中日本自動車短期大学では、エレクトロニクスを中心とした技術の進歩、新素材の導入、環境対策などに対応する人材養成のため1993(平成5)年に 専攻科自動車工学専攻(2年課程、入学定員20名)を設置し、これを2004(平成16)年に教育課程を変更し国土交通省の一級自動車整備士養成課程として認可を得た。1999(平成11)年には板金・塗装のスペシャリスト養成のため 専攻科車体整備専攻(1年課程、定員20名、2004(平成16)年40名に変更)を設置した。また、開学以来 東南アジア各国から多くの留学生

を受け入れてきたが、留学生への教育をより充実させるため留学生別科（1年課程定員20名、2008（平成20）年に100名に変更）を2005（平成17）年に開設した。この2005年頃より、18歳人口の減少の影響が出始め、加えていわゆる若者のクルマ離れとも相まって600名の入学定員確保が難しくなった。そのため2009（平成21）年に同一分野内での改組転換を実施し、自動車工学科の定員減（入学定員300名）と新たにモータースポーツエンジニアリング学科（3年課程、入学定員50名）と国際自動車工学科（3年課程、入学定員50名）の設置を行った。さらに、2011（平成23）年には、電気自動車（EV）、ハイブリッド車（HEV）等次世代自動車に対応できる自動車の電気、電子に強い人材育成を行うことを目的に専攻科エコカー整備専攻（1年課程、定員20名）を設置し、3学科3専攻1別科体制とした。

表0-1 学園及び中日本自動車短期大学の沿革

学校法人神野学園の沿革（概要）		中日本自動車短期大学の沿革（概要）	
1967年	学校法人神野学園設立 中日本自動車短期大学開設	1967年	学校法人神野学園設立 中日本自動車短期大学開設
1971年	中日本航空専門技術学校開設	(2年課程 定員150)	
1973年	国際医学総合技術学院開設	1968年	自動車工業科定員変更（定員400）
1976年	中日本航空専門技術学校を中日本航空専門学校に校名変更	1971年	自動車工業科定員変更（定員600）
1983年	岐阜医療技術短期大学開設	1993年	専攻科自動車工学専攻開設 (2年課程 定員20)
1985年	国際医学総合技術学院を廃止	1999年	専攻科車体整備専攻開設 (1年課程 定員20)
1988年	国際情報パシフィック専門学校開設	2004年	専攻科車体整備専攻定員変更(定員40) 専攻科自動車工学専攻の教育課程を変更し、一級自動車整備士養成課程として認可（定員20）
1999年	国際情報パシフィック専門学校を東海福祉情報観光専門学校へ校名変更	2005年	留学生別科開設（1年課程 定員20）
2004年	東海福祉情報観光専門学校を東海福祉総合専門学校へ校名変更	2007年	自動車工業科を自動車工学科に名称変更
2005年	岐阜医療科学大学設置認可	2008年	留学生別科定員変更（定員100）
2008年	岐阜医療技術短期大学を廃止	2009年	自動車工学科定員変更（定員300） モータースポーツエンジニアリング学科開設 (3年課程 定員50)
2009年	東海福祉総合専門学校を設置者変更		国際自動車工学科開設 (3年課程定員50)
		2011年	専攻科エコカー整備専攻開設 (1年課程定員50)
		2012年	自動車工学科定員変更（定員200） モータースポーツエンジニアリング学科定員変更 (定員40名)

(4) 立地地域の人口動態・学生の入学動向・地域社会のニーズ

・坂祝町の概要、産業、人口

本学のある坂祝(さかほづ)町は、岐阜県の中南部に位置しており、南は天下の奇勝「日本ライン」木曾川を挟んで愛知県犬山市および岐阜県可児市に、東および北は美濃加茂市に、西は関市西田原と各務原市鷯沼宝積寺町に接しており、東西 4.9 キロメートル、南北 4.3 キロメートル、面積 12.89 平方キロメートルの町である。

町の南部を木曾川が流れており、川に沿って国道 21 号線（旧 中山道にあたる）および JR 高山本線が東西に貫いている。町の中央部を



図 0-1 短期大学所在の市区町村の位置図

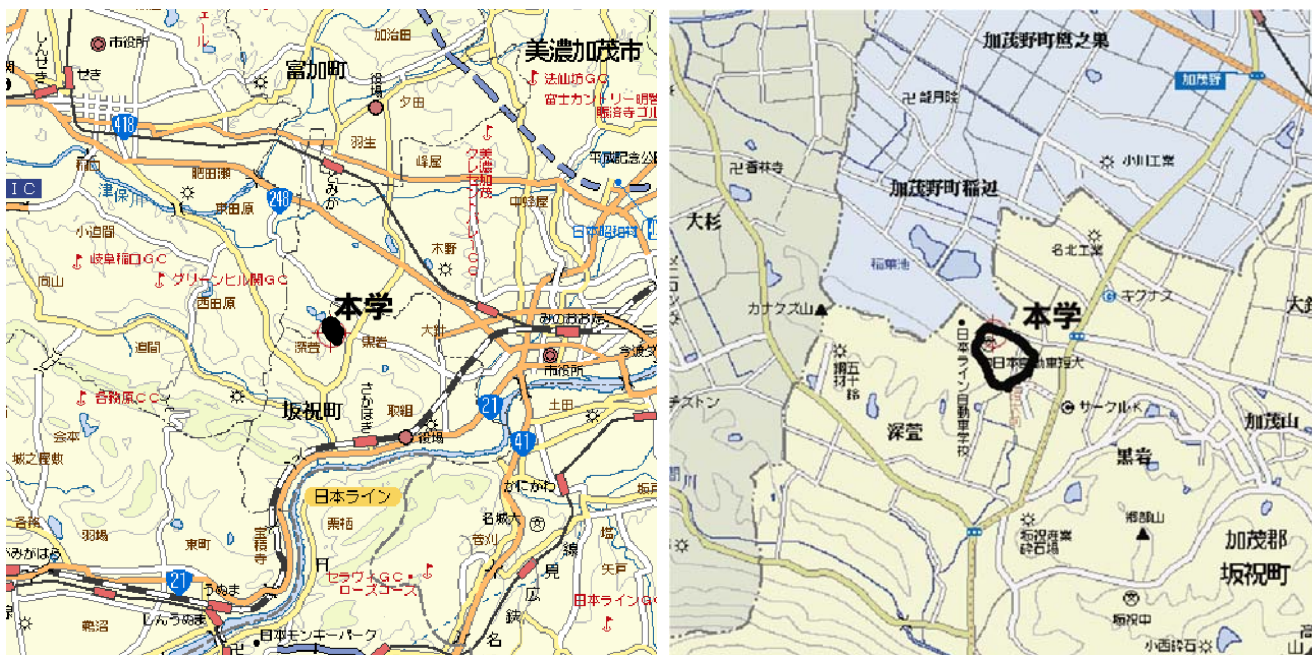


図 0-2 短期大学所在地の周辺図

郷部(ごほ)山丘陵が占め、これらを取り囲むように平野部が広がっている。西部には、城山などの急峻な山地が連なっていて、各務原市との境となっている。(京都からやってくると、中山道が急峻になる最初の地で、古代は「坂歩危」と書かれたとのことである。)

(坂祝町ホームページから)

坂祝町の産業は農業であり、他に古くから「日本瓦」の産地として有名であった。新しくは町内に「三菱パジェロ製造(株)」が工場立地し、自動車製造が主力産業となっている。2013(平成 25)年 3 月末で、人口は 8,447 人、世帯数は 3,236 である。

・学生の出身地別人数及び割合

本学の学生の出身地は、北海道（入学生の累計 98 名）から沖縄（累計 326 名）までに亘っているが、主には東海 3 県である。（累計は愛知 6,666 名、岐阜 3,216 名、三重 1,406 名、静岡 1,662 名）ここ数年の入学者数を以下の表にする。

表 0-2 新入生の出身地別人数

地域	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
岐阜	54	17.4%	45	19.8%	56	22.1%	55	24.6%	39	22.9%
愛知	66	21.2%	63	27.8%	57	22.5%	51	22.8%	36	21.2%
三重	25	8.0%	18	7.9%	22	8.7%	19	8.5%	14	8.2%
その他	102	32.8%	54	23.8%	67	26.5%	48	21.4%	55	32.4%
海外	64	20.6%	47	20.7%	51	20.2%	51	22.8%	26	15.3%
合計	311		227		253		224		170	

専攻科・留学生別科除く、秋入学生を含まず

本学の学生構成で特筆すべきは、留学生が多いことである。特に、日本語教育を目的とした留学生別科を設けていることもあるが、別科を含めると 24 年 5 月現在では、

中国	99 名	ベトナム	81 名
タイ	7 名	ネパール	3 名
台湾	1 名	マレーシア	1 名

が在籍している。

もちろん、講義・実習は日本語でなされている。

・地域社会の産業の状況

上に述べたように、学生の出身地は東海 3 県が大半を占めているが、「地域」を広げて比較することにする。経済産業省の発表した平成 23 (2011) 年工業統計表のデータによると、都道府県ごとに**輸送用機械器具製造業**の全製造業に占める割合（出荷額ベース）は、

愛知	48.6 %	岐阜	15.3 %
三重	24.0 %	静岡	26.1 %
東京	15.5 %	大阪	4.2 %

と、東海地区の比率は非常に高く、クルマの生産が工業の主力になっていることが容易に想像できる。静岡・愛知では、製造業の事業所数の 10 %以上が輸送用機器の生産に携わっている。（平成 23 年工業統計表「市区町村編」（経済産業省経済産業政策局調査統計部）より

また、社団法人 日本自動車販売協会連合会に加盟する、自動車ディーラーの会員数を比べると、
(<http://www.jada.or.jp/>)

愛知	55 社	岐阜	21 社
三重	34 社	静岡	68 社
東京	38 社	大阪	37 社

と、大都市圏に比べて遜色がない。（会社数であって、支店・営業所数ではない）

このように、東海地区はクルマ産業に立脚した地域であると言える。2012(平成 24)年度の就職決定状況を見ると、自動車ディーラーとその他販売・整備業へ就職する学生が、112名(就職内定者の78.3%)を占めており、このことを反映している。



図0-3 短期大学の建物配置図

平成24(2012)年8月10号館(旧図書館)を取り壊した

(5) 課題等に対する向上・充実の状況

- ① 平成24年の第三者評価結果における三つの意見の「向上・充実のための課題」で指摘された事項への対応について（領域別評価票における指摘への対応は任意）

改善を要する事項 (向上・充実のための課題)	対策	成果
<p>[基準Ⅱ テーマA 教育課程] ○各授業の学生アンケート評価結果を含めて、学位授与の方針に示す学習成果を更に向上するために、シラバスにおいて、すべての授業科目についての詳細な学習成果及びその到達目標を明示することが望ましい。</p>	<p>2012（平成24）年3月に「学習成果検討ワーキンググループ」を設置した。 2012年度においては、延べ16回の検討会議を実施し、各授業科目のシラバスに学習成果（学習到達目標）を設置することが明示された。</p>	<p>2013年度より使用するシラバスについては、すべての授業科目において学習到達目標を明記するため、各科目担当者に対しは書式に則ったシラバスの作成が指示され、新書式によるシラバス発行の準備が完了した。</p>
<p>[基準Ⅱ テーマB 学生支援] ○学習進度の速い学生や優秀な学生に対する学習支援を組織的に取り組むことが望ましい。</p>	<p>「カリキュラム見直し検討ワーキンググループ」を中心に検討中である。</p>	
<p>[基準Ⅲ テーマD 財的資源] ○自動車工学科、モータースポーツエンジニアリング学科、国際自動車工学科共に定員未充足の現状を改善するための適切な措置を講じられたい。</p>	<p>学園本部と協議し、モータースポーツ及び海外留学生募集に関しての施策を検討し募集計画を立案し実行していく。</p>	

- ② 上記以外で、改善を図った事項について

改善を要する事項 (向上・充実のための課題)	対策	成果

(6) 学生データ

評価実施年度(平成 25 年度)を含む過去 5 年の学校基本調査のデータを示す。

なお、以下、網掛け部分は当該学科等が設置されていないことを意味する。

① 入学定員、入学者数、入学定員充足率、収容定員、在籍者数、収容定員充足率

学科等の名称	事項	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	備考
自動車工学科 (自動車工業科)	入学定員	600	300	300	300	200	200	
	入学者数	311	171	205	162	127	147	
	入学定員充足率 (%)	51.8%	57.0%	68.3%	54.0%	63.5%	73.5%	
	収容定員	1200	900	600	600	500	400	
	在籍者数	753	544	430	383	313	285	
	収容定員充足率 (%)	62.8%	60.4%	71.7%	63.8%	62.6%	71.3%	
モータースポーツ エンジニアリング 学科	入学定員		50	50	50	40	40	
	入学者数		21	16	23	24	20	
	入学定員充足率 (%)		42.0%	32.0%	46.0%	60.0%	50.0%	
	収容定員		50	100	150	140	130	
	在籍者数		21	37	59	60	65	
	収容定員充足率 (%)		42.0%	37.0%	39.3%	42.9%	50.0%	
国際自動車工学科	入学定員		50	50	50	50	50	
	入学者数		35	32	39	19	50	
	入学定員充足率 (%)		70.0%	64.0%	78.0%	38.0%	100.0%	
	収容定員		50	100	150	150	150	
	在籍者数		35	63	86	75	95	
	収容定員充足率 (%)		70.0%	63.0%	57.3%	50.0%	63.3%	
専攻科1級自動車 整備専攻	入学定員	20	20	20	20	20	20	
	入学者数	10	7	10	12	5	6	
	入学定員充足率 (%)	50.0%	35.0%	50.0%	60.0%	25.0%	30.0%	
	収容定員	40	40	40	40	40	40	
	在籍者数	24	17	17	23	18	11	
	収容定員充足率 (%)	60.0%	42.5%	42.5%	57.5%	45.0%	27.5%	
専攻科車体整備専攻	入学定員	40	40	40	40	40	40	
	入学者数	43	34	47	31	38	35	
	入学定員充足率 (%)	107.5%	85.0%	117.5%	77.5%	95.0%	87.5%	
	収容定員	40	40	40	40	40	40	
	在籍者数	43	34	47	31	38	35	
	収容定員充足率 (%)	107.5%	85.0%	117.5%	77.5%	95.0%	87.5%	
専攻科エコカー 整備専攻	入学定員				20	20	20	
	入学者数				1	2	1	
	入学定員充足率 (%)				5.0%	10.0%	5.0%	
	収容定員				20	20	20	
	在籍者数				1	2	1	
	収容定員充足率 (%)				5.0%	10.0%	5.0%	
留学生別科	入学定員	100	100	100	100	100	100	
	入学者数	36	25	6	14	33	35	
	入学定員充足率 (%)	36.0%	25.0%	6.0%	14.0%	33.0%	35.0%	
	収容定員	100	100	100	100	100	100	
	在籍者数	89	92	35	26	57	66	
	収容定員充足率 (%)	89.0%	92.0%	35.0%	26.0%	57.0%	66.0%	

② 卒業者数（人）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
自動車工学科	324	271	148	162	135
モータースポーツ エンジニアリング学科				20	15
国際自動車工学科				14	17
自動車工学専攻	14	10	7	9	5
車体整備専攻	42	34	45	30	38
エコカー整備専攻				1	2
留学生別科	40	69	30	21	40

③ 退学者数（人）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
自動車工学科	66	66	67	36	47
モータースポーツ エンジニアリング学科		0	0	3	0
国際自動車工学科		3	16	12	14
自動車工学専攻	2	0	0	0	0
車体整備専攻	1	0	0	2	0
エコカー整備専攻				0	0
留学生別科	23	24	7	19	23

退学者+除籍

④ 休学者数（人）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
自動車工学科	36	16	23	26	16
モータースポーツ エンジニアリング学科		1	1	0	2
国際自動車工学科		2	1	20	6
自動車工学専攻	2	0	0	0	0
車体整備専攻	0	0	1	0	0
エコカー整備専攻				0	0
留学生別科	0	2	0	0	3

休学のべ人数-秋継続-年度内復学者

⑤ 就職者数（人）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
自動車工学科	235	132	71	84	75
モータースポーツ エンジニアリング学科				11	14
国際自動車工学科				5	4
自動車工学専攻	14	10	7	9	13
車体整備専攻	42	28	36	26	36
エコカー整備専攻				1	2
留学生別科					

⑥ 進学者数（人）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
自動車工学科	47	61	49	47	45
モータースポーツ エンジニアリング学科				5	1
国際自動車工学科				3	1
自動車工学専攻	0	0	0	0	0
車体整備専攻	0	1	1	1	0
エコカー整備専攻				0	0
留学生別科	62	78	46	29	40
	(20)	(10)	(18)	(12)	(2)

()は内数で未修了者

(7) 短期大学設置基準を上回っている状況・短期大学の概要

2013(平成 25)年 5 月 1 日現在

① 教員組織の概要（人）

学科等名	専任教員数					設置基準 で定める 教員数		助手	非常勤 教員	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	[イ]	[ロ]			
自動車工学科	6	11	7		24	7 (3)	—		16	工業 関係
モータースポーツエ ンジニアリング学科	2	3		1	6	6 (2)	—			
国際自動車工学科	2	5	2	1	10	6 (2)	—			
(小計)	10	19	9	2	40	22 (7)	—		16	
[ロ]						—	6 (2)			
(合計)	10	19	9	2	40	22 (7)	6 (2)			

[注] [イ] は、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイに定める学科の種類に応じて定める教員数

() 内は、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイの備考第 1 号に定める教授数

[ロ] は、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定め
る教員数

② 教員以外の職員の概要（人）

	専任	兼任	計
事務職員	21		21
技術職員			0
図書館・学習資源 センター等の 専門事務職員	1		1
その他の職員	2		2
計	24	0	24

その他の職員：看護師、寮監（各 1 名）

③ 校地等 (㎡)

校地等	区分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する 他の学校 等の専用 (㎡)	計 (㎡)	基準面積 (㎡) 注	在学生一 人当たり の面積 (㎡)	備考 (共 有の状況 等)
	校舎敷地	43,491			43,491	7,900	97.1	
	運動場用地	19,365			19,365			
	小計	62,856			62,856			
	その他	18,519			18,519			
合計	81,375			81,375				

[注] 短期大学設置基準上必要な面積 (収容定員 790 人 7,900 ㎡)

④ 校舎 (㎡)

区分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の学校 等の専用 (㎡)	計 (㎡)	基準面積 (㎡) [注]
校舎	25,283				9,000

[注] 短期大学設置基準上必要な面積 (収容定員 790 人 9,000 ㎡)

⑤ 教室等 (室)

講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習室	語学学習施設
23		50	2	

⑥ 専任教員研究室 (室)

専任教員研究室
33

⑦ 図書・設備
面積等

図書館	面積 (㎡)	閲覧席数	収納可能冊数
	345	42	*3.6万冊

* 図書館の収納可能冊数は書棚90cmで25冊を収納可能として計算。

体育館	面積 (㎡)	グラウンド	面積 (㎡)
	1,458		19,365
テニスコート	面積 (㎡)		
	1,600		

図書数

学科・専攻課程	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 (種)	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 (点)	機械・器具 (点)	標本 (点)
	(冊)					
計	34,752 [2,409]	6 [0]	0	631	7	0

(8) 短期大学の情報の公表について
以下の通り、公表している。

①教育情報の公表について

	事項	公表方法等
1	大学の教育研究上の目的に関すること	本学HPにて公開 (http://www.nakanihon.ac.jp)
2	教育研究上の基本組織に関すること	本学HPにて公開 (http://www.nakanihon.ac.jp)
3	教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること	本学HPにて公開 (http://www.nakanihon.ac.jp)
4	入学者に関する受け入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること	入学者に関する受け入れ方針については、本学HP (http://www.nakanihon.ac.jp)、及び募集要項にて公開。入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、本学HP (http://www.nakanihon.ac.jp)にて公開
5	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること	学生便覧および講義要綱を学生に配布
6	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること	学生便覧に掲載し学生に配布
7	校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること	入学案内、HPにて公開 (http://www.nakanihon.ac.jp)
8	授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること	募集要項およびHPにて公開 (http://www.nakanihon.ac.jp)
9	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること	学生便覧に掲載し学生に配布

②学校法人の財務情報の公開について

事項	公開方法等
資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、消費収支計算書の推移・消費収支計算比率の推移、財産目録、監査報告書、事業報告書	学園ホームページにて公開 (http://www.jinno.ac.jp/)

(9) 各学科・専攻課程ごとの学習成果について

(1) 学習成果の規定

本学は工業系短期大学として自動車産業に関わる技術者を育成するとともに、二級自動車整備士を養成する国土交通省の認定大学として自動車の安全運行や環境保全に関わる自動車整備技術者の育成を行っている。したがって、本学の卒業生は、自動車工学や自動車整備に関する専門の知識や技術を身につけ、二級自動車整備士資格を取得することはもちろんのことであるが、人の命を預かる技術者としての倫理観や豊かな人間性を兼ね備えていなければならない。

本学が設置する3学科において、学生が卒業までに身に付けるべきこと、すなわち「学習成果」は、ディプロマポリシー（学位授与方針：DP）の中で（次ページ 表0-3）以下のように規定している。

自動車工学科

1. 教養科目を通して豊かな人間性や基礎学力を養い、広い視野から専門領域を超えて問題を探求する姿勢・態度および社会的責任感や技術者としての倫理観を身に付ける。
2. 専門科目では、体系化された自動車工学に関する学習を通して、自動車技術に関する普遍的な原理を理解するとともに、技術革新に対応できる創造力や実践力を身に付ける。

MSE学科

1. 教養科目を通して豊かな人間性や基礎学力を養い、広い視野から専門領域を超えて問題を探求する姿勢・態度および社会的責任感や技術者としての倫理観を身に付ける。
2. 専門科目では、体系化された自動車工学に関する学習およびサーキットという実習フィールドでの社会学習を通して、自動車技術に関する普遍的な原理を理解するとともに、技術革新に対応できる創造力や実践力および社会性を身に付ける。

国際自動車工学科

1. 教養科目を通して豊かな人間性や基礎学力を養い、広い視野から専門領域を超えて問題を探求する姿勢・態度および社会的責任感や技術者としての倫理観を身に付ける。
2. 専門科目では、体系化された自動車工学に関する学習を通して、自動車技術に関する普遍的な原理を理解するとともに技術革新に対応できる創造力や実践力を身に付ける。

表0-3 学科ごとのディプロマ ポリシー

学科・専攻科	学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）
自動車工学科	<p>教育理念・目標に基づき、それを達成するための教育課程を編成している。卒業までに身に付けるべきこととして、以下に挙げるものが求められる。所定の単位を修めた学生は卒業が認定される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養科目を通して豊かな人間性や基礎学力を養い、広い視野から専門領域を超えて問題を探求する姿勢・態度および社会的責任感や技術者としての倫理観を身に付ける。 2. 専門科目では、体系化された自動車工学に関する学習を通して、自動車技術に関する普遍的な原理を理解するとともに、技術革新に対応できる創造力や実践力を身に付ける。 <p>二級認定科目を修めて卒業した者には、二級ガソリン自動車整備士および二級ジーゼル自動車整備士の受験資格が付与される。</p>
モータースポーツエンジニアリング学科	<p>教育理念・目標に基づき、それを達成するための教育課程を編成している。卒業までに身に付けるべきこととして、以下に挙げるものが求められる。所定の単位を修めた学生は卒業が認定される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養科目を通して豊かな人間性や基礎学力を養い、広い視野から専門領域を超えて問題を探求する姿勢・態度および社会的責任感や技術者としての倫理観を身に付ける。 2. 専門科目では、体系化された自動車工学に関する学習およびサーキットという実習フィールドでの社会学習を通して、自動車技術に関する普遍的な原理を理解するとともに、技術革新に対応できる創造力や実践力および社会性を身に付ける。 <p>二級認定科目を修めて卒業した者には、二級ガソリン自動車整備士および二級ジーゼル自動車整備士の受験資格が付与される。</p>
国際自動車工学科	<p>教育理念・目標に基づき、それを達成するための教育課程を編成している。卒業までに身に付けるべきこととして、以下に挙げるものが求められる。所定の単位を修めた学生は卒業が認定される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養科目を通して豊かな人間性や基礎学力を養い、広い視野から専門領域を超えて問題を探求する姿勢・態度および社会的責任感や技術者としての倫理観を身に付ける。 2. 専門科目では、体系化された自動車工学に関する学習を通して、自動車技術に関する普遍的な原理を理解するとともに技術革新に対応できる創造力や実践力を身に付ける。 <p>二級認定科目を修めて卒業した者には、二級ガソリン自動車整備士および二級ジーゼル自動車整備士の受験資格が付与される。</p>
専攻科 自動車工学専攻	<p>一級自動車整備士とは、より高度な整備技術力に裏付けされたアドバイザー能力、安全管理、環境保全など重要なテーマに貢献できる整備士として位置づけられている。一級自動車整備士には、二級自動車整備士の知識に加え以下に挙げる高度な知識・技術を身に付けることが求められる。これらを身に付け、所定の単位を修めた学生は修了が認定される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電子制御装置の高度整備・故障診断技術 2. 振動・騒音の高度整備・故障診断技術 3. 新技術（ハイブリッド車など） 4. 総合診断（問診・診断・整備計画等）と整備結果の説明 5. 環境保全 6. 安全管理
専攻科 車体整備専攻	<p>自動車車体整備士には、二級自動車整備士の知識に加え以下の専門的知識・技術が求められる。これらを身に付け、所定の単位を修めた学生は修了が認定される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 車枠及び車体の計測技術 2. 車枠及び車体の修正技術 3. 車枠及び車体の板金・溶接技術 4. 車枠及び車体の塗装技術
専攻科 エコカー整備専攻	<p>教育目的に基づき、それを達成するための教育課程を編成している。卒業までに身に付けるべきこととして、以下に挙げるものが求められる。これらを身に付け、所定の単位を修めた学生は修了が認定される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車の電気や電子に関する高度な知識 2. EV, HEVに関する高度な知識や整備技術
留学生別科	<p>本学教育理念と留学生別科の教育目的に基づき、以下の内容を身に付け、所定の修了要件を満たした者に修了が認定される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の文化・風俗・習慣に触れ、日本人の考え方を理解し日本社会に適応する能力を養うとともに、国際的な幅広い視野と思考力を身につける。 2. “読む・聞く・話す・書く”の4技能がバランスよく伸び、大学において日本人とともに授業を受講できる程度の日本語能力（N2レベル相当）を身につける。

(2) 学習成果の向上・充実の方法

本学では、学習成果の向上・充実を図るため、以下に示す内容を実施している。

- ① 定期的な教育課程（カリキュラム）及び教科教育内容の見直し
 - ・ 国家試験合格率を向上させるための教科教育内容の見直し
 - ・ 教養教育の見直し（CD教育の強化など）
 - ・ ICT教育の充実
 - ・ 体験学習（インターンシップなど）の実施

- ② 教職員の資質向上を図るためのFD・SD活動の推進
 - ・ 学生を対象にした授業アンケートの実施、教育方法の改善・工夫
 - ・ 学長・学科長や同僚教員による授業参観の実施
 - ・ 教職員のための研修会の実施
 - ・ CD教育を通じてのファシリテータの養成

- ③ 学生の質（学力や気質）の変化に対応した支援体制の整備
 - ・ 入学前教育の実施
 - ・ 学習支援センターや学生支援室を中心とした学習支援や学生指導の実施
 - ・ 特別教育（二級自動車整備士登録試験に対応するための春季実力養成ゼミ、少人数教育など）の実施

(3) 現状の課題と対策について

本学は、2012年に短期大学基準協会による2回目の第三者評価を受け「適格」と認定されたが、その際作成した自己点検報告書の中で、学習成果に関して次の課題が明らかにされた。

- ① ディプロマポリシー（学位授与方針：DP）に示した成果をあげるには、より詳細で明確な学習成果の設定が必要である。
（学科ごとの学習成果の設定、科目ごとの学習成果の明確化、シラバスの改善）
- ② 教員の成績評価にばらつきがあり、成績評価の厳格化、適正化についてさらに検討する必要がある。
- ③ 本学における学習成果は、単なる資格取得や専門知識の修得だけでなく、豊かな人間性や汎用的な知識・技能も含めて評価する必要がある。これらを含めた査定（アセスメント）の手法については確立しているとは言いがたく、さらに検討する必要がある。
（GPA制度の活用、アセスメントツールの開発など）

また、前述した短期大学基準協会の第三者評価結果において、向上・充実のための課題として、「各授業の学生のアンケート評価結果を含めて、学位授与の方針に示す学習成果を更に向上するために、シラバスにおいて、すべての授業科目についての詳細な学習成果及びその到達目標を明示することが望ましい」とのご指摘もいただいた。

これらの課題に対応するため、2012(平成24)年3月に「学習成果検討ワーキンググル

ープ」を設置し、ここでは、2012(平成 24)年度には 16 回の検討会議が開催された。その間、課題の改善に向け、教授会において 2 回の中間報告が行われた。また、これらの動きに併せて、来年度(2013 年度)から使用するシラバスにおいて、各授業科目の学習成果(学習到達目標)の設定と明示、成績の評価方法の明確化などの改善が実施された。

- ・ 学習成果検討WG 第 1 回中間報告の内容(第 12 回教授会 2012 年 9 月 27 日)
 1. 各学科における学習成果の明確化
 - ・ 自動車工学科の学習成果(案)について
 2. 授業科目における学習成果(学習到達目標)の設定と明示
 - ・ 科目ごとの学習到達目標を設定し、シラバスに明示することを確認。
 3. 厳密な成績評価について
教員による成績評価の適切性確保について、引き続き検討する。
 4. アセスメントの方法について
 - ・ 学生に対する{学習到達度アンケート}の実施を検討する。
(その際、学習時間の確保についても留意する。)
 - ・ GPA などの活用、アセスメントツールなどについては引き続き検討する。

- ・ 学習成果検討WG 第 2 回中間報告の内容(第 30 回教授会 2013 年 3 月 22 日)
 1. 各学科における学習成果の明確化
 - ・ M S E 学科の学習成果(案)について
 - ・ 国際自動車工学科の学習成果(案)について

(10) オフキャンパス、遠隔教育、通信教育のその他の教育プログラム
該当するようなプログラムは行っていない。

(11) 公的資金の適正管理の状況

本学は、科学研究費補助金の交付を 2008(平成 10)年以降受けておらず、現在 公的研究費補助の取扱いに関する規程がない。今後、補助金の獲得を目指すためにも、適正管理の方針及び規程作成について検討していく。

(12) その他

特にありません。

2. 自己点検・評価報告書の概要

本学の建学の精神は「技術者たる前に良き人間たれ」である。その建学の精神を反映して教育の本質は人間性の涵養にあるという信念の下に、「人間性豊かな自動車技術者を育成し、教育研究を通じて社会に貢献する。」を教育理念としている。

建学の精神は学外へは本学ホームページ、学校案内等を通して、また、学内では学生便覧、校舎の各棟の主だった箇所での掲示等により表明している。また、入学式等の各式典、新入生オリエンテーションにおける学長講話によって学内において共有している。

建学の精神・教育の理念に基づいて教育目的・目標および学習成果は明確であり、これらは学内外に表明されている。またPDCAサイクルを実施することにより教育の質保証が図られている。但し、学習成果に対する査定（アセスメント）はまだ十分とは言えず、さらなる学習成果の明確化、明文化を図るため、2012(平成24)年3月に「学習成果検討ワーキンググループ」を設置し、16回の会議を経て、各授業科目の学習到達目標の設定と明示、成績の評価方法の明確化などの改善が実施された。今後は、アセスメントの方法、成績評価の厳格化などについて検討していく。

自己点検・評価については、学内評価実施委員会ならびに自己点検実施分科会を組織し実施している。自己点検・評価による課題については、学校目標として年度当初に全教職員へ学長が説明し、各個人においては上期・下期の個人目標を設定し全教職員が関与している。

学科・専攻科の学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針は明確に示されている。また、学生の卒業後評価への取り組みとしてアンケート調査を行い、卒業生の満足度の尺度としている。今後はカリキュラムマップを更に充実させることと、入学者の入学前の学習成果の把握・評価を具体化させたい。また、学科・専攻科の学習成果の獲得に向けては、施設設備及び技術的資源を有効に活用している。SD・FD活動に力を入れ学習成果獲得の向上に努力し、基礎学力が不足する学生に対しては補習授業を行うなど学習支援も行っている。学生の生活支援や就職支援も組織的に行っているが、今後は、多様な学力者の入学が増加することが予想されるため、個々のケースに対応した学生指導・学習指導を更に充実させるための組織作りを進める。

教育資源（人的資源、物的資源、技術的資源）については適切に整備され、これらを有効に活用して、教育効果を高める努力が払われている。また必要な施設・設備は整備され適切に管理されている。財的資源については、募集状況の急激な減少のため、2007(平成19)年度から支出超過となり現在に至っているが、運営は中期経営計画に基づき適切に行われている。尚、2009(平成21)年度に改組転換を行ったが、本学の財務状況は、過去3年間支出超過である。現在、2009(平成23)年9月に再提案した第4次中期経営計画（平成23年度～28年度の5カ年計画）の更なる見直しを行い、平成24年度～28年度の経営計画を平成24年10月に理事会に提出した。

学校法人及び大学の管理運営体制については、理事長は学校法人を代表し業務を総理し、寄附行為の規程に基づいて理事会を開催している。理事は法令に基づき適切に構成され、理事会は学校法人の意思決定機関として適切に運営されている。理事長は学校法人の運営全般にリーダーシップを適切に発揮し、理事会等の学校法人の管理運営体制が確立している。学長は教授会の他、学長室会議を設置するとともに主だった委員会の委員長も兼務し、

建学の精神に基づき短期大学の向上・充実に向けて努力しリーダーシップを発揮している。

監事は学校法人の財産の状況及び業務を監査し、寄附行為の規程に基づき適切に業務を行い、評議員会は寄附行為の規程に基づいて開催され、理事会の諮問機関として適切に運営している。毎年度の事業計画と予算の決定、年度予算の適正な執行、円滑な出納業務、経営状況及び財務状態の適正な表示、資産及び資金の適正な管理運用、法令に基づいた情報公開など、ガバナンスが適正に機能している。

3. 自己点検・評価の組織と活動

2013（平成25）年度学内評価実施委員会は、委員長の学長をはじめ以下の14名の委員にて構成されている。

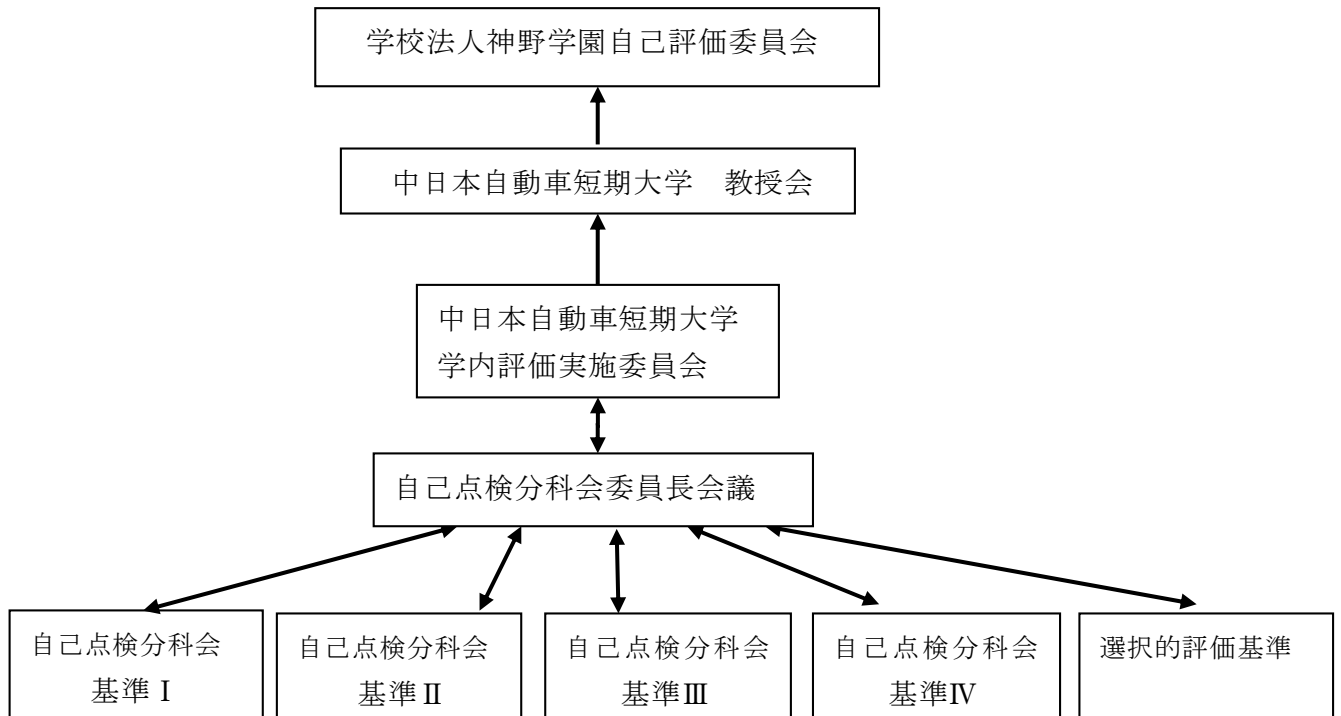
1	委員長	学長	山田 弘幸
2	委員	自動車工学科学科長	杉谷 秀三
3	委員	モータースポーツエンジニアリング学科学科長	鹿子嶋 正人
4	委員	国際自動車工学科学科長	吉田 立
5	委員	実習教室主任	西側 通雄
6	委員	学生部長	長谷川 達也
7	委員	教務部長	清水 啓司
8	委員	広報部長	中川 実
9	委員	図書館長	森本 一彦
10	委員	自動車工学科	脇 俊隆
11	委員	情報センター長	青木 恒夫
12	委員	モータースポーツエンジニアリング学科	加藤 泰世
13	委員	事務局長	太田 悟実
14	委員	事務局次長	伊藤 英修

また、短期大学基準協会の新基準の様式に基づき、各基準またはテーマ別に自己点検分科会を下表の通り設置している。

○：分科会委員長、■：事務職員

I	建学の精神と教育効果	○学長、杉谷、鹿子嶋、吉田、清水（啓）、長谷川、大脇
II	A 教育課程	○清水（啓）、杉谷、西側、鹿子嶋、吉田、古川、加藤（泰）、 ■木下
	B 学生支援	○長谷川、中川、清水（啓）、■鍵谷
III	A 人的資源、B 物的資源、 C 技術的資源	○杉谷、西側、鹿子嶋、吉田、森本、青木、■太田、伊藤
	D 財的資源	○■太田、伊藤、後藤（光）
IV	リーダーシップと ガバナンス	○学長、■太田、伊藤
	選択的評価基準	○学長、杉谷、森本、吉田、清水（啓）、長谷川、大脇、 青木

自己点検・評価の組織図を以下に示す。



本学の自己点検・評価は「中日本自動車短期大学自己点検・評価実施規程」に基づき、実施している。自己点検・評価報告書完成までの活動記録（抜粋）は以下の通りである。

活動日	活動内容	実施者
平成24年5月10日	自己点検分科会委員長会議 報告書作成にあたっての留意事項確認 今後のスケジュールの確認	A L O、自己点検分科会委員長
平成24年6月2日	自己点検分科会委員長会議 報告書の確認	A L O、自己点検分科会委員長
平成24年6月4日	自己点検分科会委員長会議 提出資料の確認 報告書の確認	A L O、自己点検分科会委員長
平成24年6月11日	平成24年度第1回学内評価実施委員会 平成23年度自己点検報告書の編集 提出資料の確認 今後のスケジュールの確認	学内評価実施委員会
平成24年6月14日	教授会にて評価実施委員会より中間報告	教授会
平成24年6月15日	自己点検分科会委員長会議 報告書の再確認	A L O、自己点検分科会委員長
平成24年6月22日	自己点検分科会委員長会議 報告書の最終確認	A L O、自己点検分科会委員長
平成24年7月5日	平成24年度第2回学内評価実施委員会 訪問調査の対応について	学内評価実施委員会
平成24年8月3日	平成24年度第3回学内評価実施委員会 訪問調査の対応について 今後のスケジュールについて	学内評価実施委員会
平成24年9月3日	平成24年度第4回学内評価実施委員会 備付資料の確認 想定問答集について	学内評価実施委員会
平成24年9月19日	平成24年度第5回学内評価実施委員会 備付資料の確認 想定問答集について 訪問調査実施要領の確認	学内評価実施委員会
平成24年11月22日	平成24年度第6回学内評価実施委員会 第三者評価面接調査の質問事項報告	学内評価実施委員会